



第138号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会長 純  
山崎 会報編集委員 長  
編集人 黒岩 英 雄  
印刷所 須坂新聞社

# 教育実践の悩み・問題点を語る

## — 平成二年度教育懇談会開催される —

六月二十八日、教育会館において、会員五十余名の参集のもとに、第十四回の教育懇談会が開催された。全体会で、山崎会長は「我々をとりまく状況は、まことに厳しく、様々な教育上の問題がある。学力の問題然り。高校の問題だけでなく、小中学校で、本当に学力をつけているか。我々は指導の結果に責任をもってあたっているのか。こうした状況を的確に把握して、今日の話し合いを通じ、明日からの教育に生かせるものを得てほしい。」と、挨拶された。続いて、三つの分散会に分かれ、懇談会が進められた。

本年度も各分散会に二名ずつのレポーターをお願いし、その発表を中心に、「教育実践上の悩みや願い」「研修のあり方」「教育上の諸問題」など、真摯な先生方の話し合いがなされた。また、助言者の先生方からは、現状を的確にとらえ、あすからの指針となる助言をいただくことができた。終りの全体会では、各分散会での懇談内容が報告され、それぞれに実り多い話し合いだった。

# 私にとっての研修の課題

原 恵子

私にとって研修とは、教材研究を含めた指導法と、自分をどう向上させるかが課題です。子供の前に立つとき、いつも教材研究の不足への反省の気持ちと、自分の人間性の貧しさを痛感させられます。教材研究を含めた指導法に

ついての研修は、書籍はもちろんです。それ以上に、経験豊かな先輩の先生方に実際の場面で指摘して頂いたり、子供への対応の仕方を拝見したりすることが、明日への指導として役に立ちます。こうした

さらには子供はこう反応したが、それは何故だったのだろうか」というように、具体的な場面に即して、先輩の先生の御指導を仰ぎながら研修を深めていきたいと思えます。教育は人なりという言葉が

# 職場が学校だから

前沢 伸一

数ある研修の中でも、校内研修が一番大切だと思う。そして、大規模校のせいかもしれないが、学年会はその中でも重要な研修の場だと思う。子どもとの接し方、教科指導、行事への取り組み方、悩みの解決等できる限り共に考え、行動できる学年会でありたい。

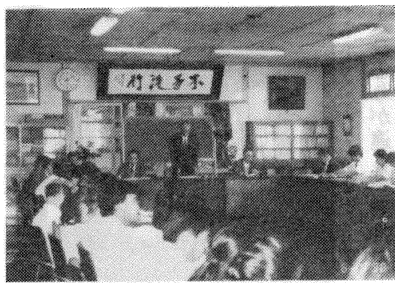
向が違うから、こういう方法で、三組は、四組はと、みんな今一つの組について考え合っている。と、かく、歩調を合わせるはずらわしさとも言われるが、これは歩調を合わせるのではなく、考え合う研修だと思ふ。そこから組の独自性

「このことは、それぞれの組独自に考えましょう。」でなく、一組にはこの方法がよい、二組は子どもたちの傾

# 班活動の充実を考える

中村 春彦

が見え、自分も伸びるのだと思ふ。センター研修、郡研究会、同好会などには専門性を高めるために是非参加したい。これでいいと思つたら自分も伸びないし、受け持つ子どもたちも伸びてくれない。先輩、後輩にかかわらず誰からも教わる心構えでいたい。あの先生の、いつかのあの時の言葉を思い出し、まねをして実践して自分を磨くのが一番いいと思ふ。学校が働く場だから。(栗ガ丘小)



ろは静かに諭せるような、心に響くはたらきかけができるようになりたと思います。そのために、更に自分自身の幅を広げるよう努力していきたいと思ふ毎日です。(井上小)

学級担任をしていて日頃思う事のひとつに、「クラスのリーダーを育てる難しさ」がある。本来、リーダーはクラスをまとめていく上で重要な位置にあるわけだが、そういった立場について仕事をしようとして希望する生徒が、学年が進むにつれて少なくなっていく気がする。原因の一つには、「やっても楽しくない。苦労するわりにあまりいい事が無い。」そんな思いが強くなることだと思ふ。これは学級経営の上で大きな問題になってくる。そこで、この傾向を少しでも解決していくための試みとして、「班活動の充実」を考

(常盤中)

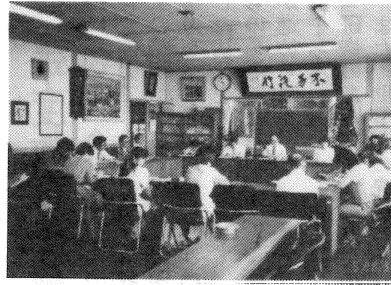
# 懇談抄

## 第一分教会

司会 丸田 兼蔵 (日野小)  
 発表 原 恵子 (井上小)  
 湯田 博 (東 中)  
 助言者 勝山 一男理事 (日野小)  
 出席者 百瀬 宏明 (栗ガ丘小)  
 西沢 佳代 (栗ガ丘小)  
 滝沢 幸嗣 (高山小)  
 牛山 勉 (森上小)  
 矢彦沢朋子 (高甫小)  
 三沢 宏尚 (豊洲小)  
 植木 京子 (旭ヶ丘小)  
 小林 清美 (仁礼小)  
 西村 弘美 (小布施中)  
 和田 邑吉 (常盤中)  
 小田切恵美子 (相森中)  
 片桐 秀一 (墨坂中)

出席者からの発言  
 ー研修についてー  
 ○教育センターでの研修が役に立った。自分を高められる研修に積極的に参加したい。  
 ○書物から教育法を学ぶだけではなく、学年会や教科会がきちんとできれば、若い先生方にも自然に伝わる。今はその時間がとりにくい。  
 ー生徒指導上の問題点ー  
 ○特殊学級を持ってみて、基礎学力をつけてやりたいと思っていたが、もっと、満足感、思いやり、粘り強さを身につけてあげたいと感じた。  
 ○学力をつけさせながらもゆ

とりを持つのは難しい。  
 ○学力だけでなく、「いじめ」を見ぬけるような力をつけたり、純粹に喜んだり、楽しんで育てたい。  
 助言者の先生から  
 ○よい先生とは「愛情」「情熱」「正義感」が備わっていることである。  
 ○子どもの表面だけでなく、奥にあるものや背景から見取る力をつける。



○自分の得意とするもの、一生の事としてできるものを見つめる。  
 ○進んで研修、同好会、郡の委員会に参加することによって、自分を高める。  
 ○生徒指導については、具体的な事例から対応の仕方を学ぶことが大切である。

(記||小野)

## 第二分教会

司会 山岸 忠生 (小布施中)  
 発表 前沢 伸一 (栗ガ丘小)  
 勝山 幸則 (高甫小)  
 助言者 若林 輝光理事 (森上小)  
 出席者 横山 圭二 (高山小)  
 牛島 初恵 (須坂小)  
 百瀬 浩子 (小山小)  
 前田 博展 (日滝小)  
 柳沢美和子 (豊洲小)  
 宮下 紀子 (日野小)  
 白金 俊二 (仁礼小)  
 山崎 弘子 (豊丘小)  
 宮下 聡 (高山中)  
 臼井 素子 (常盤中)  
 山際 正巳 (相森中)

堀内 利江 (墨坂中)  
 出席者の発言  
 研修のあり方  
 ○学年会は、行事の持ち方だけでなく、生徒の扱い方、教師の悩みを話し合える貴重な研修の場である。  
 ○今まで単級であったので学年会を持つ良さがわかるが、やはり自分なりの学級経営も存分にやりたい。  
 ○実技研修は取り組みやすく、また学校へもどっての伝達講習なども有意義である。  
 ○同好会は、もう少し会員の意見を聞いて設置、運営していただきたい。忙しさを理由にして参加しないのが現状である。  
 ー教育の諸問題についてー  
 ○個人差を考慮しながらも家庭での生活のリズムをつくる



一人ひとりが違う。健常児の学級でも一人ひとりを大切にしていかなければならない。  
 ○障害児の父母は、深く子どもの事で思い悩んでいる。  
 ○研修には二通りあり、専門性と、人間性を高めるもの子どもにも学ぶことも大切だ。  
 ○教育実践を持ち寄り、「千曲川」というサークル活動。  
 ○各校にすばらしい生徒たちがいる。求めて学ぶ姿勢が必要。  
 ○県下の先生と同好会を持つて研修、苦しい事だが人間関係がうれしい支えだ。  
 ○男子生徒が弱くなっている。リーダーが育たない。  
 ○先生の専門性に触れたとき生徒はついてくる。  
 ○教師の学級作りの考え方を学級世論にまで高めること。  
 けでなく、生徒の扱い方、教師の悩みを話し合える貴重な研修の場である。  
 ○今まで単級であったので学年会を持つ良さがわかるが、やはり自分なりの学級経営も存分にやりたい。  
 ○実技研修は取り組みやすく、また学校へもどっての伝達講習なども有意義である。  
 ○同好会は、もう少し会員の意見を聞いて設置、運営していただきたい。忙しさを理由にして参加しないのが現状である。  
 ー教育の諸問題についてー  
 ○個人差を考慮しながらも家庭での生活のリズムをつくる  
 ○学校拒否と学習障害児。  
 ○教師になってよかったという感慨が持てるようになる。  
 助言者の先生から  
 ○三Kと花長風月、若者の希望する就職条件。汚い、苦勞危険の無い。はなやかで、社風(いご)のよい、月給の高い。先生の社会もこの条件に合うと見られている。  
 ○先生方教材研究の時間が不足している。  
 ○先生が自分の生徒の思いや悩みを、あたかも自分のことのように語られ、それを聴く参会の先生方も同じ思いにたどりつこうと、一点を見つめながらじっくりと考えていられる姿が印象的でした。  
 当日、基調提案をされ、忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。(田中・小林)

## 第三分教会

司会 小田切千芳 (高山小)  
 発表 滝沢美津子 (日滝小)  
 中村 春彦 (常盤中)  
 助言者 小林 謙三理事 (高山小)  
 出席者 佐々木早苗 (栗ガ丘小)  
 田中 義人 (須坂小)  
 岸田 幸弘 (小山小)  
 若尾 哲也 (井上小)  
 中塚奈緒子 (森上小)  
 田鍋 隆行 (旭ヶ丘小)  
 小平 祐子 (仁礼小)  
 小山 修二 (小布施中)  
 小沢 順子 (高山中)  
 新津 朋典 (相森中)  
 黒岩 和博 (墨坂中)  
 岡島 千佳 (東 中)

出席者からの発言  
 ○障害児教育に携わって来て多くの事を学ぶ。子どもたち



第十四回教育懇談会特集号をお届けします。  
 ある先生が自分の生徒の思いや悩みを、あたかも自分のことのように語られ、それを聴く参会の先生方も同じ思いにたどりつこうと、一点を見つめながらじっくりと考えていられる姿が印象的でした。  
 当日、基調提案をされ、忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。(田中・小林)

## 編集後記

梅雨の晴れ間のさわやかな本音の語り合えた懇談会であった。(記||牛山)